

(有)遠藤サービス
代表取締役

PICK UP

THE PERSON

遠藤 和也

KEY WORD

道義

— dougi —



「人生で逆境にある時、いつも誰かに支えられ、助けられてきました」――

遠藤社長は自らの半生を振り返り、そう語る。

人に恵まれるのは、運が良いからではない。

人に尽くしてきた者が人に恵まれるのであって、それは映し鏡であると言える。

社長はこれまで何よりも人を大切にし、その肩書きに関わらず、

誰であろうとも誠意を尽くして縁を育んできた。

相手が偉いとか年下とか、そんなことは関係ない。

いつだって人対人で接すること――それが今後もぶれることのない社長の流儀だ。

「“人”を大切にして縁を育む。
いつまでもその信念は貫いていきたい」

磨き上げた練達の技術と豊かな人間力で 顧客のニーズに十全に応え信頼を築く

建築物排水管清掃業をはじめ、建築物飲料水貯水槽清掃業、各種管内カメラ調査、給排水衛生設備修繕工事など、多様な業務を展開する『遠藤サービス』。確かな技術力で以て水回りのライフラインを支えている精鋭企業だ。本日は、そんな同社にタレントのつちやかおりさんが訪問。様々な苦勞を乗り越えて今の基盤を作り上げた遠藤社長に、お話を伺った。

――早速ですが、遠藤社長の歩みからお聞かせいただけますか。

(和) 宮城県仙台市の出身で、鮮魚関係の仕事を手伝っていた父の背中を見て育ちました。小学生のころから陸上に打ち込んでいて、短距離から中距離、長距離と一通りやりました。小学生の時は1000メートルの市の大会で入賞したことも。中学生になってからも続けて、高校では長距離選手として駅伝の東北大会にも出させていただきました。とにかく走るが好きで、やり甲斐も感じていましたね。

――長く陸上に情熱を注いでこられたんですね。社会人になってからもずっと続けていらっしゃったのですか。

(和) いえ、実は陸上は高校2年生で身を退いたんですよ。そこからは、オートレースに魅了されたのめり込んでいました。

――オートレースと言うと、あのバイクで走る競技ですか。

(和) そうです。私が通っていたのが工業

高校で、やんちゃな学生も結構多かったんです。私もお恥ずかしながらその部類で(笑)、高校に入ってからバイクに関心を寄せるようになったのです。よくバイク屋に通い、自分たちで修理や整備なんかもしていました。高校2年生のある時、バイク屋のお兄さんが「良いところに連れて行ってやる」と先導してくれて付いていったのがサーキット場。私はそのレースの光景を見て衝撃を受けて、一瞬で魅了されてしまったんですよ。折しも、陸上ではやりたかった短距離をやらせてもらえず、少なからず焦った気持ちがありましたので、オートレースに打ち込む決意を固めました。そうして、レース場からの帰りに、オートレース用のつなぎ(レーシングスーツ)を買っていましたね(笑)。

――決断してから行動が早いんですね。陸上といい、オートレースといい、社長は本当に走ることが好きなのですね(笑)。

(和) そう思います。走ることが好きで、

負けることが嫌い――それが私のパーソナルステータスですね(笑)。とは言え、オートレースに打ち込んだのは、結果的に4年ほどでした。高校を卒業してから一度就職したのですが、バイクのことが頭から離れなくて、数カ月で会社を辞めてしまい、アルバイトをしながらオートレースに熱を上げていました。

――オートレースを辞められたのは、何かきっかけがあったのでしょうか。

(和) きっかけと呼べるかわかりませんが、資金繰りが苦しくなってきたのと人間関係に少し疲れたというのが理由です。オートレースは継続するのにお金がかかり、アルバイトの生活ではなかなか厳しい状況にありました。そうした中で、恩人とも呼べる方から管工事の仕事を紹介していただき、以来、同じ業界で研鑽を重ねています。

――独立心は予てから持っておられたのでしょうか。

(和) いえ、独立したいという思いは正直ありませんでした。私自身、トップに立つような器ではないと思っていましたし、ましてや会社の社長になるなんて夢にも思わなかったというのが本音です。独立については、紆余曲折があつて、結果的に傾いていた勤務先を引き取って再スタートを切ったという感じなんですよ。当時はとても厳しい状況でしたが、妻も私を応援し支えてくれて立て直すことができました。苦勞をかけても文句一つ言わず背中を押してくれた妻には今も感謝しありません。

――社長のお言葉を聞いて、奥様はいかがですか。

(あ) 後で後悔はしてほしくなかったの

で、やれることは私も協力してやっていくという思いでした。夫は義理堅く人情をととても大切にする人で、時にはそれで苦勞が伴うこともこれまで少なからずありました。でも、そんな夫だからこそ、逆に助けてくれたり支えてくれたりする周囲の方がたくさんいるのかなあとも思いますね。

――奥様の言葉を受けて、社長はいかがですか。

(和) 面映ゆい感じです(笑)。自分のことはどうかわかりませんが、人に恵まれてきたというのはその通りだと思います。振り返ってみると、要所要所で誰かに救われてきましたし、優秀な従業員がいてくれるからこそ、当社の今があると思います。本当に感謝しかありません。

――社長のそうした誠実なお人柄が、周囲の方からの信頼を呼び込むのだと思いますよ。ではお話も尽きませんが、最後に今後の抱負をお聞かせ下さい。

(和) 独立してからもう20年近く経ち、今でも変わらず仕事を続けさせてもらっていることは、本当にありがたいことだと思っています。今は管工事業と清掃業の2本柱を事業軸として、業容も広がってきています。従業員とその家族が毎日を安心して笑って暮らせるように、経営者として今後も事業を拡充させながら、責任感を持って会社を発展させていければと思います。今、私は48歳ですが、もうしばらくは駆け足で走っていこうと思います！

――今後頑張ってください！



代表取締役

遠藤 和也



取締役

遠藤 あけみ

「奥様をはじめ、従業員さんや取引先さんなど、周囲の方々への感謝を常に口にしていらっしゃった遠藤社長。そのお言葉の端々から、とても誠実で真っ直ぐなお人柄が窺えました。かつては陸上競技に励まれ、その後はオートレースにも情熱を注いでこられ、今は真摯に仕事に向き合い汗を流しておられます。どんな時も真っ直ぐに前を見て走り続ける――そんな社長の姿勢に、周囲の皆様は惹かれるのでしょう。これからも健康を大事に、頑張ってください」

つちや かおり (タレント)



Company Profile



有限会社 遠藤サービス

宮城県仙台市宮城野区中野 5-4-14



VIEW POINT

適材適所が良い仕事を生む

▼建築物排水管清掃業を軸に、多様な業務を手掛ける『遠藤サービス』では、現在7名のスタッフが日々汗を流しながら活躍しているという。年齢層もバランスよく20代から40代まで優秀な人材が集っている。そんなあまねく人材を力強く牽引する遠藤社長は、一人ひとりの個性を大切に日々仕事に臨んでいる。「人は皆、得て不得手があります。陸上で言うなら、短距離が得意な人もいれば長距離が得意な人もいます。仕事においては、い

かに適材適所に人を配置できるかで仕事の質やスピードが変わりますから、スタッフの特性をしっかり見極めることが大事だと考えています。幸いにも、当社には管工事業と清掃業という2つの事業軸がありますから、得意な分野で活躍してもらっています」と社長。同社が顧客や取引先から抜群の信頼を寄せられるのは、そんな社長の人材配置の妙があるからだろう。今後も社長は、何よりも人を大切にするという信念を掲げ歩んでいく。